

様式1 令和2年度 山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	保護者及び関係機関との連携を推進し、「たくましい力」と「ゆたかな心」を持った児童生徒の育成を図る	
本年度の重点目標	1 児童生徒一人一人の基本的生活力をつける教育活動を推進する	達成度 A ほぼ達成できた。(8割以上) B 概ね達成できた。(6割以上) C 不十分である。(4割以上) D 達成できなかった。(4割以下)
	2 保護者や地域関係機関との連携を深める活動を推進する	
	3 安全・安心な学習環境を充実する	

山梨県立わかば支援学校ふじかわ分校 校長 柳澤 義	
評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自己評価			
本年度の重点目標			年度末評価(1月28日現在)
番号	評価項目	具体的方策	自己評価結果
1	児童生徒一人一人の基本的生活力をつける教育活動の推進	授業研究や校内研修を進め、児童生徒の理解、授業改善、教職員の専門性の向上等に努める。	研究会の開催状況研究のまよめの作成
		児童生徒一人一人の障害及び発達段階を適切に把握し、個々の指導上の課題を全職員が共有し、効果的な研究実施方法を検討し、組織的計画的な支援を行う。	個別の指導計画 学部会、職員会議等での共通理解
		児童生徒一人一人の進路を考慮しながら、引き続きキャリア教育全体計画の見直し及び共通理解の充実を図る。	キャリア教育全体計画の見直し及び共通理解
2	保護者や地域関係機関等との連携を深める活動の推進	地域の小・中学校との交流及び共同学習ならびに保護者や地域との交流活動を推進する。	【教務】HPは計画的な更新ができなかった。 【交流】今年度は、直接的な交流は難しかったが地域の小・中学校とは図工や美術作品による間接的な交流を行うことができた。地域の団体とは、昔遊びのおもちゃや大掃除用の雑巾をいただき、それらを使ったり、お礼の手紙を返したりと間接的な交流を行うことができた。 【地域支援】地域の教育機関への訪問支援や各種連携協議会への参加など、各機関と連携しながらセンター的機能の発揮に努めた。地域支援だよりを発行し、就学や専門家活用についての情報発信を行った。峡南保健福祉事務所と共催で峡南地域発達障害児連携支援研修会を実施できた。センター的機能の発揮状況は職員会議で報告し、共有した。 【小中学部】わかば本校の当該学年と合同学習の一環として自己紹介カードの交換などの交流を行うことができた。学部だよりを発行し、行事や学習の様子を保護者に伝えることができた。
		HPを見やすく変更することで活用につなげ、保護者や地域にふじかわ分校の教育活動に関する情報を適切に提供する。	HPの更新状況 学部だより等の発行
		地域の教育・行政と連携し、個別の支援だけでなく、各学校の専門性の向上等を支援するセンター的機能を生かし、取り組む。またその状況を情報として発信していく。	連携協議会の開催 教育事務所との連携 地域支援だよりの発行
		センター的機能の発揮状況を全教職員で共有し、ふじかわ分校の専門性を生かした支援が行えるよう、校内支援体制を整える。	地域支援係で管理する教育支援のリストアップ状況及び、校内研修会の実施状況
3	安全・安心な学習環境の充実	スクールバスの運行体制や非常災害時における対応等について、保護者や教職員間の共通理解を図り、スクールバスの安全運行に努める。	【生指・環防】今年度から業者委託による運行となったが、日々の引継ぎはもちろんのこと、年間数回スクールバス運営委員会を実施し、児童生徒の様子や運行上の課題等について情報共有と検討を行うことができた。災害時の対応については、全教職員を対象とした災害時の対応マニュアルの確認や、災害用伝言ダイヤルの体験、備蓄品の点検・補充・入れ替え等を行った。避難訓練は2学期に地震想定、3学期に火災想定避難訓練を行い、避難方法の確認を行うことができた。各学部や学年の実態に応じて事前・事後学習に丁寧に取り組めた。また、引き渡し訓練についてはこれまでの方法を見直し、ドライブスルー方式での引き渡しを行うことができた。 【保健・給食】嘔吐物処理、誤嚥の救急対応シミュレーションを行った。また、給食や保健についての体制を整備・見直しを図り、マニュアルや規程を整えることができた。さらに、医療的ケアの必要な児童への対応を整え、組織作りができた。 ・感染症拡大防止の観点から、「新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン(分校版)」を作成し、職員間で取り組み内容を共有しながら、適切に取り組むことができた。
		危機管理マニュアルを継続的に見直し、非常食や備蓄品の管理を適切に行う。また災害発生に備えた各種訓練内容を検討し実践的訓練を実施する。	非常食等管理リストの作成 各種訓練の実施状況
		コロナウイルス感染症への対応を整理し、嘔吐物処理マニュアルを作成する。学校での児童生徒の事故や急病等に備え、医療機関や救急隊員に引き継ぐまでの体制を明確にし、緊急時の対応について訓練を実施する。	マニュアル作成と緊急時シミュレーション訓練の実施状況

学校関係者評価	
実施日(令和3年2月15日)	
評価	意見・要望等
4	児童生徒の障害のレベルの違いにより、それぞれ社会に出て十分に活躍できるということを知りました。一貫性や連続性を考えた指導がされている。児童生徒の将来の独立、社会の一員となるための指導が必要で、今後も見直しを重ねてください。小人数で児童生徒の個々の実態に応じた、細やかな教育が実践でき、心配りの行き届く分校の良さをこれからも発揮していきましょう。
	地域や小中学校との交流、連携を生かし、児童生徒が頑張れる学校としてこれからも実践を重ねてください。情報機器の活用、また図書室の利用の見直しなどをして、より良い教育に当たってください。より多くの人に分校の良さを知っていただけるよう、情報発信に努めてください。
	コロナ禍の折、ご苦労がたくさんあったと思います。これからもきちんとして体制の中で、児童生徒の健康管理に十分配慮していただきたいと思います。
4	【教務】児童生徒に継続的、発展的に学習を行い、新しい行動様式に慣れ安全な行動ができる習慣を身に付けさせながら、児童生徒に継続的、発展的に学習を行う必要がある。 【生指・環防】スクールバスの運行体制については、引き続きスクールバス運営委員会や乗車審議会の場を設けて、情報交換と重要事項についての共通確認を行っている。災害時の対応については、今年度実施できなかったスクールバス乗車時の避難訓練や起震車体験等を実施し、緊急時に備えていきたい。保護者への引き渡し訓練については、今年度同様「ドライブスルー方式」での引き渡しを行っている。 【保健・給食】児童生徒の状況を踏まえ、県とも協調して適切で漏漏のない保健給食環境を作り上げるよう、今後も継続して努めていきたい。 ・新型コロナウイルス感染症をはじめ、感染症対策には社会的な状況や医学的見地にとりて迅速に対応しながら、児童生徒の安全安心を担保するよう、今後も定期的にガイドラインの改定を行う。また、教職員の安全意識の改善・向上と、生徒の新しい生活習慣作りに取り組んでいく必要がある。

留意点 (1)重点目標と評価項目については、各学校の現状と課題に基づき、実情に合わせて重点化し、設定する。
(2)学校関係者評価については、年度当初に今年度の重点目標の現状と具体的対策を説明し、評価に必要な情報提供を計画的に行う。学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価委員会等を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。